



賑わい駅まち広場

～相鉄線鶴ヶ峰駅の地下化計画～

職業能力開発総合大学校 建築専攻 平戸奨八



背景

近年、少子化や高齢化に伴うコンパクトシティ実現や、駅施設の老朽化による改修・再整備の必要性が高まっており、全国各地で街の再活性化を目的とした駅と周辺施設の一体的な建替え計画が行われている。

郊外駅は利用者の大半が地域住民であり、生活拠点を結ぶノード(結節点)として、住みやすさや街の印象を左右する重要な役割を担っている。

しかし従来の郊外駅建替えでは交通機能や商業施設の充実という目的ばかりが重視された開発により、現状の郊外駅には**地域を活性化させ、街の魅力を高める快適な駅まち空間**が欠如している。地域の特性やニーズを反映し、地域に付加価値を与える設計が求められると考える。

設計対象

神奈川県横浜市旭区 相鉄線鶴ヶ峰駅

鶴ヶ峰は横浜駅と海老名駅の間地点に位置する郊外住宅地である。鶴ヶ峰駅周辺には旭区役所、旭消防署、旭福祉保健センターなどの行政機関が集中しており、**旭区の区心**として、隣駅の二俣川駅周辺と共に横浜市における主要な生活拠点に位置付けられている。

さらに鶴ヶ峰駅からは国内最大級の動物園「ズーラシア」や数多くの自然豊かな公園にアクセスすることができ、他地域からの来訪者も多い駅である。区全体が大きな公園となることをイメージして「**旭区グリーンロード構想（下図）**」が推進されている。

また相鉄線は近年、西谷駅を基点としてJR線や東急東横線と接続され、直通で都心に赴くことが可能となった。これにより交通の利便性が大きく向上し、駅周辺の商業地区の拡大も予想される。現在、鶴ヶ峰駅及び両隣の西谷駅～二俣川駅まで約2.8km の路線を地下化する「**連続立体交差事業**」が進んでおり、2033年完工予定である。

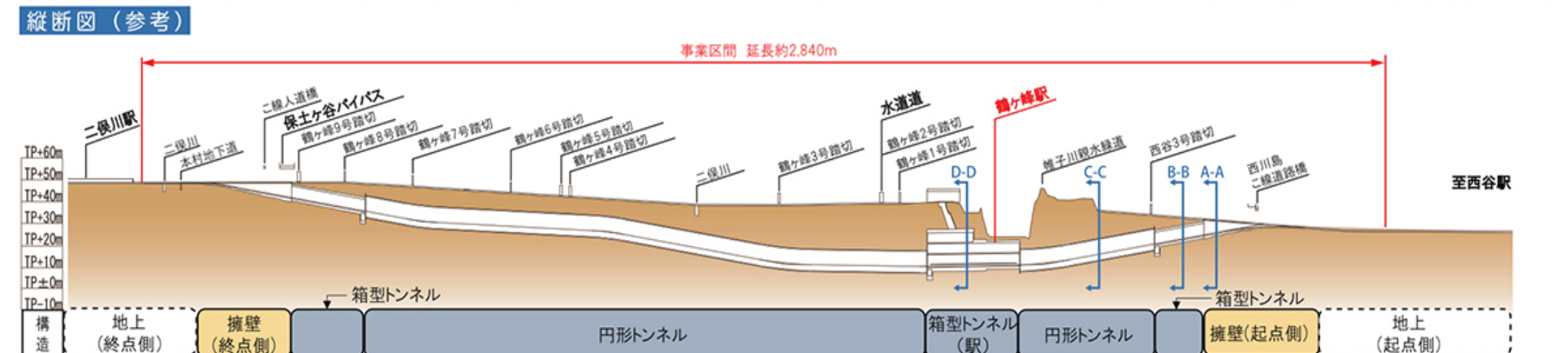
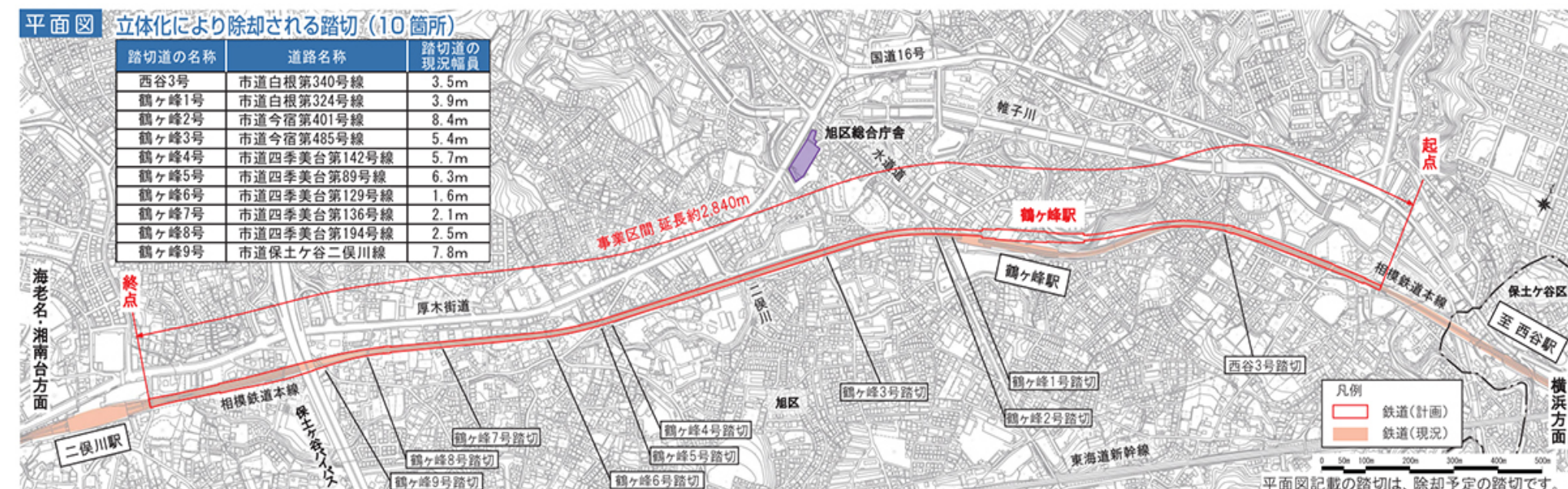


連続立体交差事業

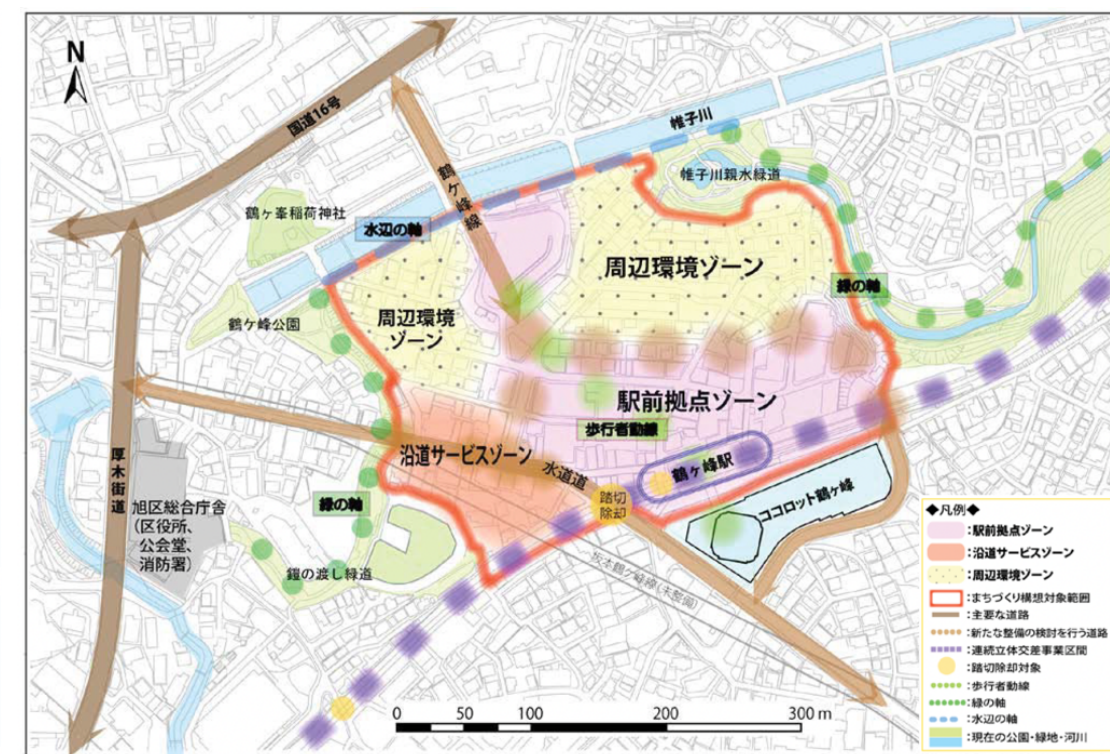
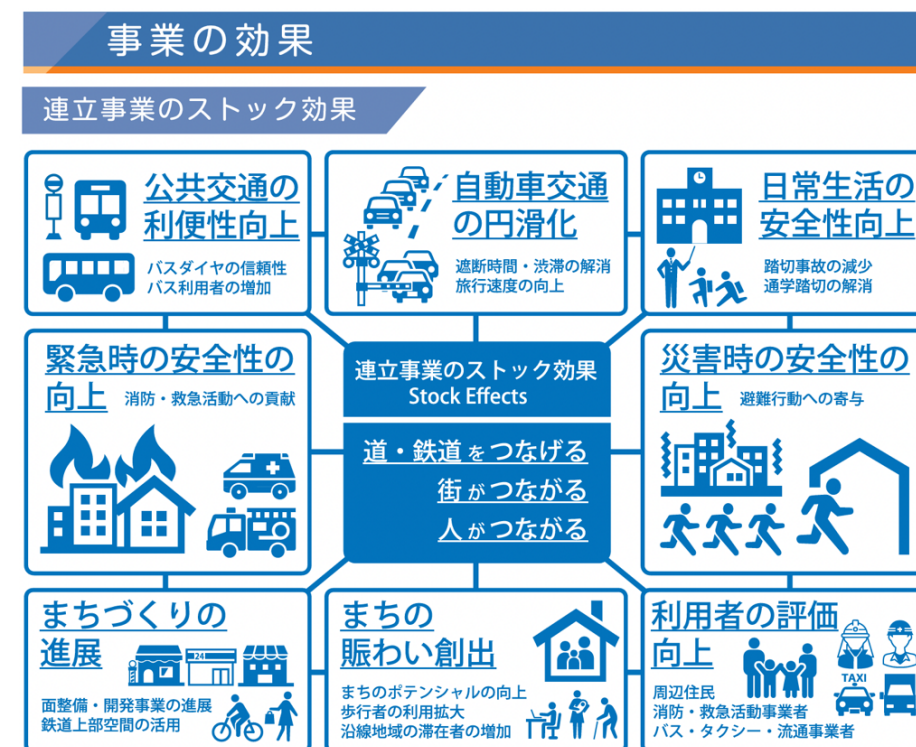
鶴ヶ峰駅周辺は道路ネットワークが脆弱であり、「**開かずの踏切**」などにより慢性的な交通渋滞の発生や、消防・救急・防災などの活動に影響が出るなど、市民生活に支障をきたしている。

この事業では地下化による計10箇所の踏切の除去により、「渋滞改善による地域交通の円滑化」、「緊急活動の阻害解消による地域の安全性の向上」、「街の分断解消による地域の活性化」などを図っている。

また、連立事業に伴い鶴ヶ峰駅北口の再整備が計画されており、「**鶴ヶ峰駅北口周辺地区まちづくり構想**」が策定されている。連立事業とまちづくりを一体的に進めることで、魅力と活気にあふれる街になることが期待されている。



連立事業の概要



設計コンセプト

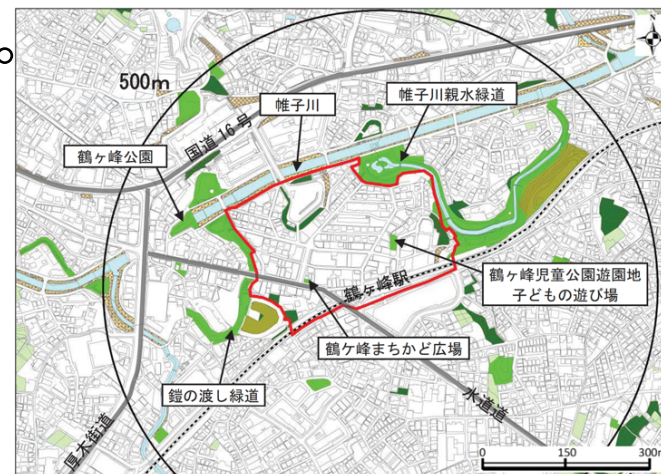
1. 「賑わいを創り、地域文化の創造・発展の拠点となる**広場**」

現在の鶴ヶ峰の駅まち空間には住民の自由な活動に使える白地空間や、人々が休憩・交流できる場が不足している。地上の鉄道跡地を活用して催しを開ける広場空間を充実させ、街のイベントや物販、教室などの活動を誘致・活性化する。街の活動が自然と鉄道利用者の目に入ること、街への関心を高め、「**人が人を呼ぶ**」ことにより多世代の人々で賑わう駅まち空間を目指す。

2. 「**地域の資源**を生かした、地上との一体的な地下空間」

首都圏の多くの地下鉄駅では、商業施設内や歩道沿いの階段のみで地上と繋がっており、地下駅空間が地上と隔離された姿となっている。本設計ではこのような地下駅の既成概念から脱却するべく、緑道により線路が深く潜る必要があるという条件を有利に捉え、**明るく地上にいたような地下駅空間**を目指した。地上の広場と一体的に繋がった空間の中に人々の滞留空間を多く配置することで、鉄道を利用せずとも街の中心として人々が休憩・交流しに集い、住民の「**サードプレイス**」となることを図る。

また鶴ヶ峰は自然に囲まれた緑道や公園が多いという魅力があるが、利用者が少なくその環境が十分に生かされずにいる。駅や地上広場と接続し、足を運びたくなる場をつくることで緑道の利用者を増やし、自然の中を回遊する駅まち空間を図る。



全体の構想



敷地図 1:1600

① 駅のホールは自然豊かな環境とのつながりをテーマに、大断面構造集成材による**森林をモチーフとした吹き抜け空間**を構成した。天井も陸屋根のガラス天板として、杣を工夫して木漏れ日のように程よく日光を通すようにすることで日差しを和らげ、林の中の雰囲気再現している。また駅構内は快適に過ごせるようにガラス壁で囲い空調が効きやすくし、省エネを考慮して南東部分の屋上には太陽光パネルを設けている。

② 駅北は芝生の広場公園とし、歩道沿いに桜を並べた。春には公園で花見が楽しめ、秋にも紅葉した桜を楽しめるなど、**四季の移ろい**を感じられる。また桜並木が親水緑道のカフェテラスへと誘導する。

③ 駅南の歩道には約100mにわたり藤棚を伸ばし、北側の公園にも日差し避けの藤棚を設けた。春には藤が満開となり名所となるだろう。

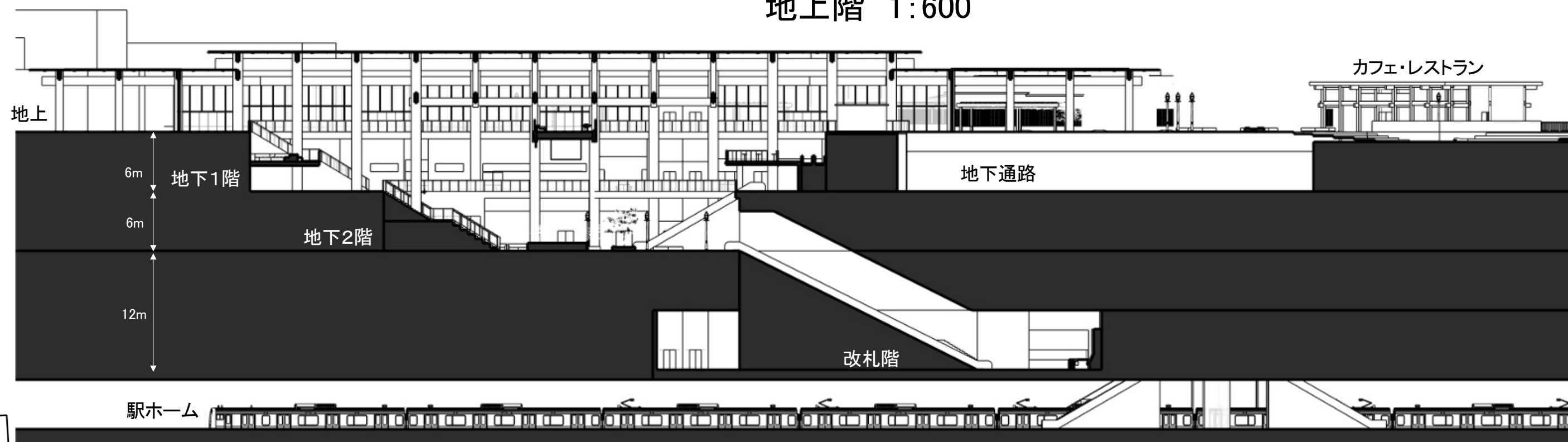
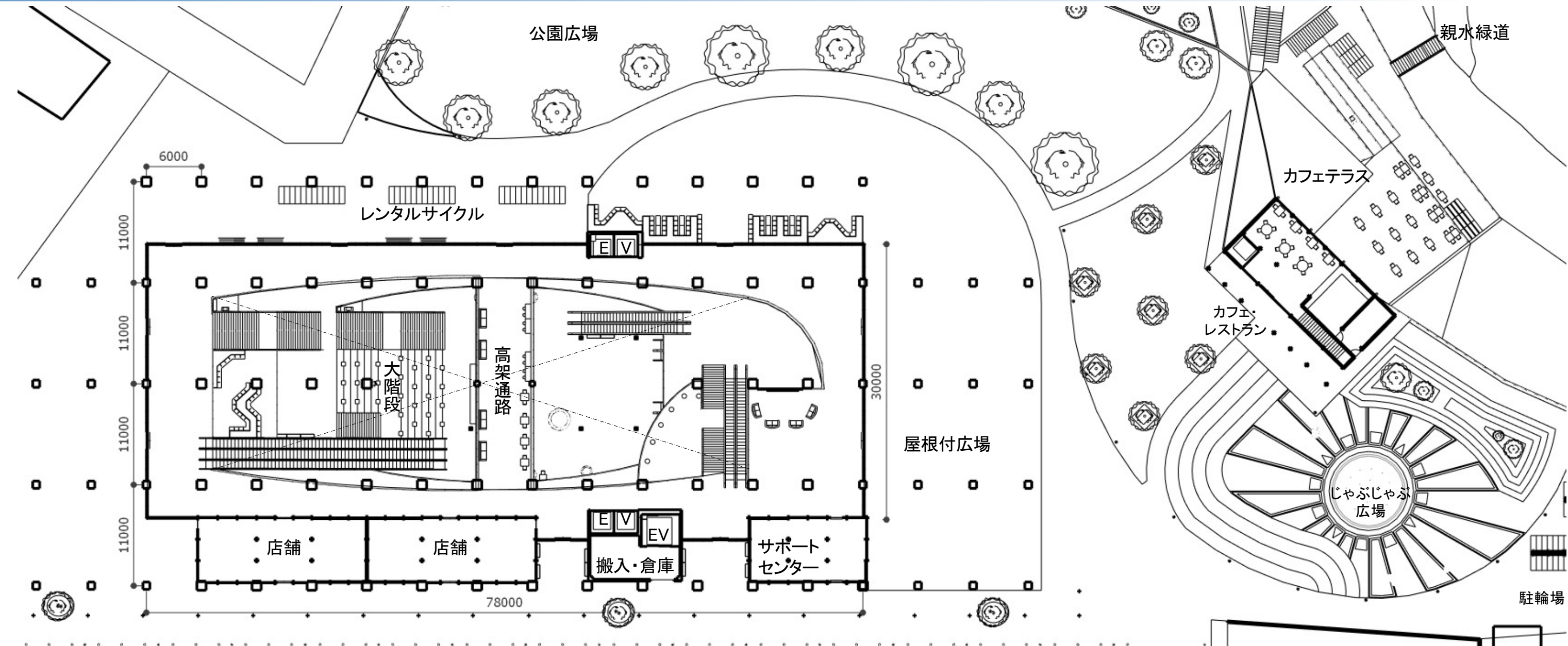
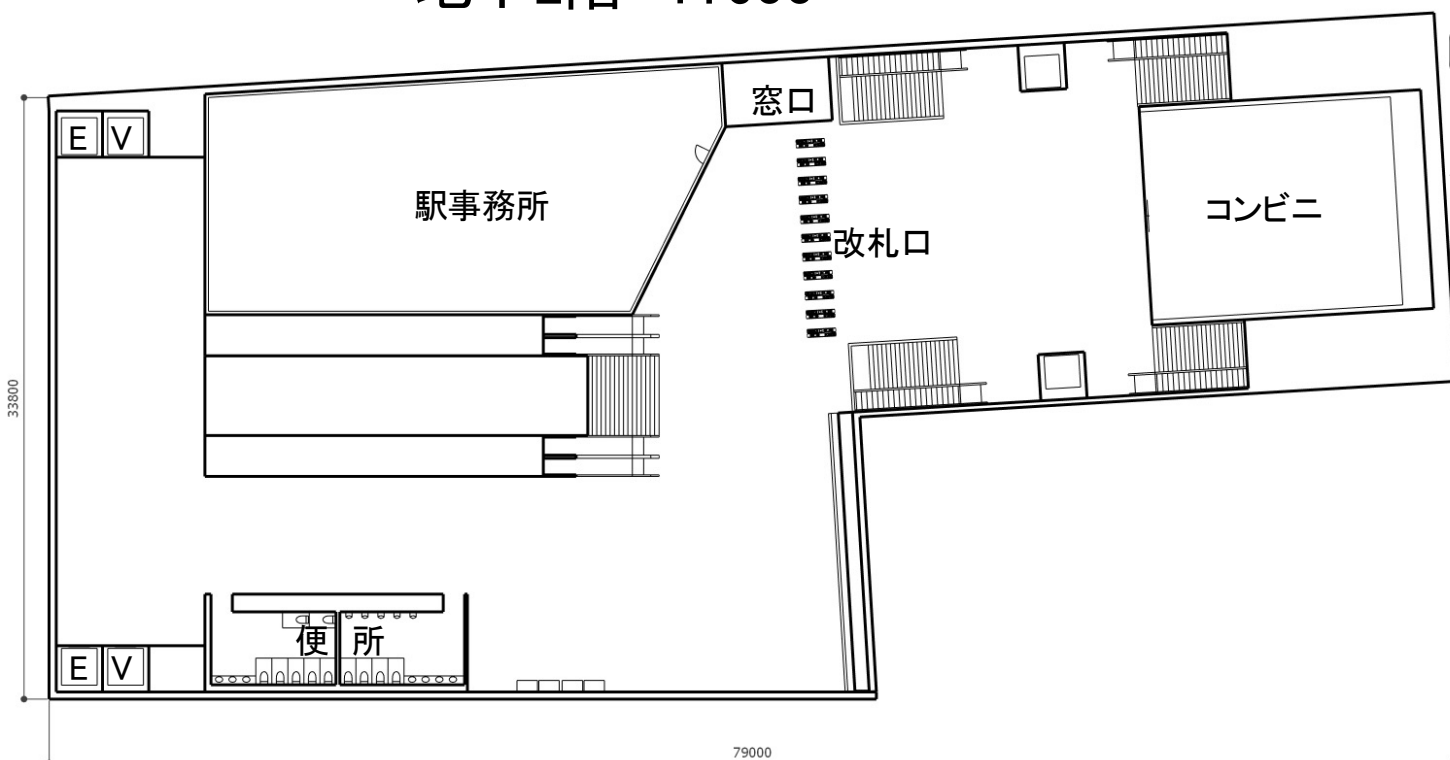
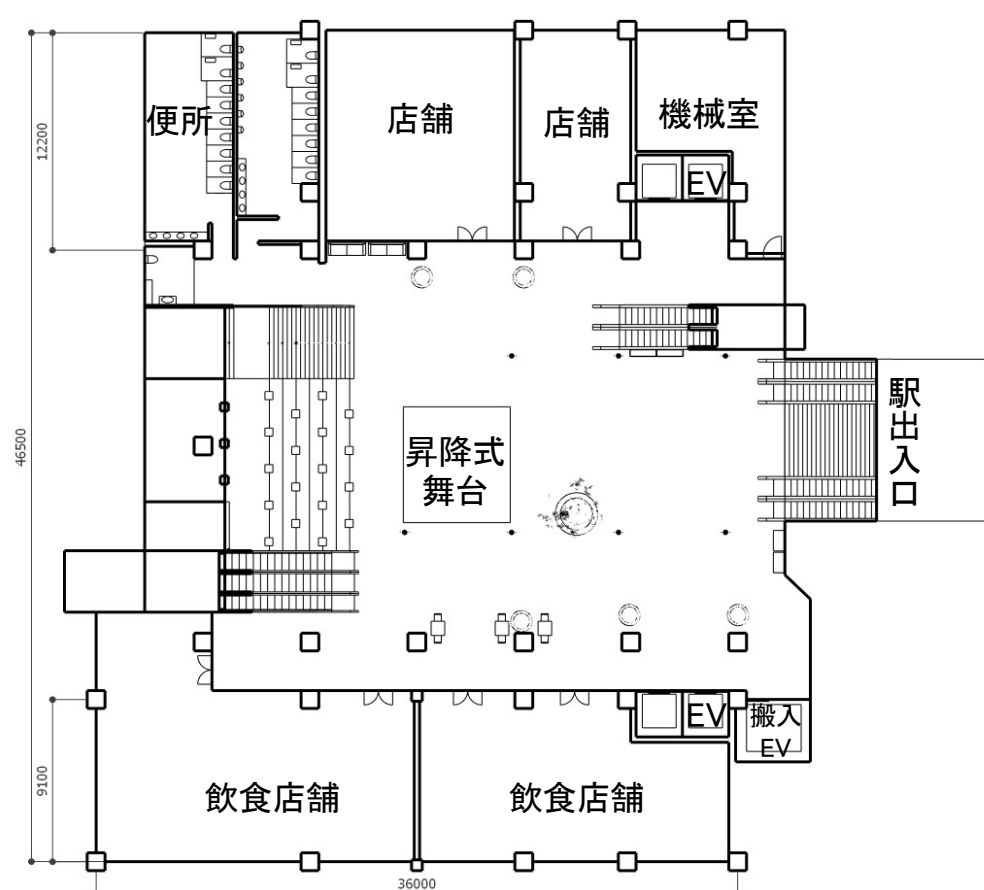
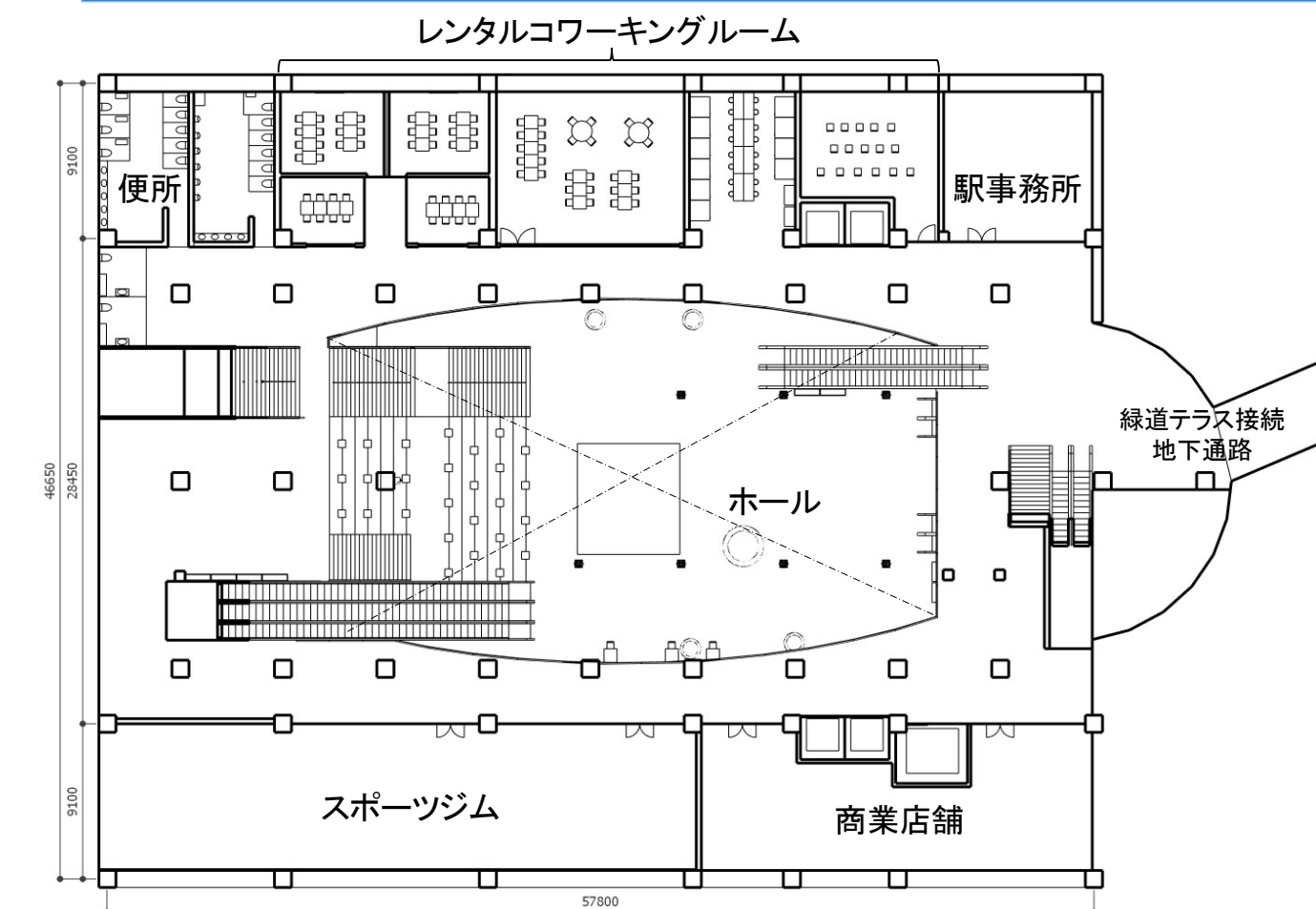
④ 東側親水緑道を活かして新たな憩いの場となるカフェレストランをつくり、地上・地下の両方で駅や広場と接続した。駅の真横とは感じさせない庭園のような空間が、日々の生活の中の際間に**非日常的な時間を与える**。このテラスはカフェでの購入者以外も利用できる。

⑤ 連立事業のために撤去した分の駐輪場を駅東口に移動させた。駅と公園の間に歩道及びサイクルロードを通し、南北両方から駐輪場へアクセスできるようにした。

⑥ 東口駅前広場は地面を下げ、夏に**じゃぶじゃぶ池**で子供達が涼しく遊べる場所にした。中央を階段で囲んでおり、夏以外でも周囲から親が見守りながら子供が遊べる公園としてや、催しを開く広場として利用できる。

駅的设计

作品名	賑わい駅まち広場 ～相鉄線鶴ヶ峰駅の地下化計画～	作品番号	4/5
校名	職業能力開発総合大学校		
氏名	平戸奨八		



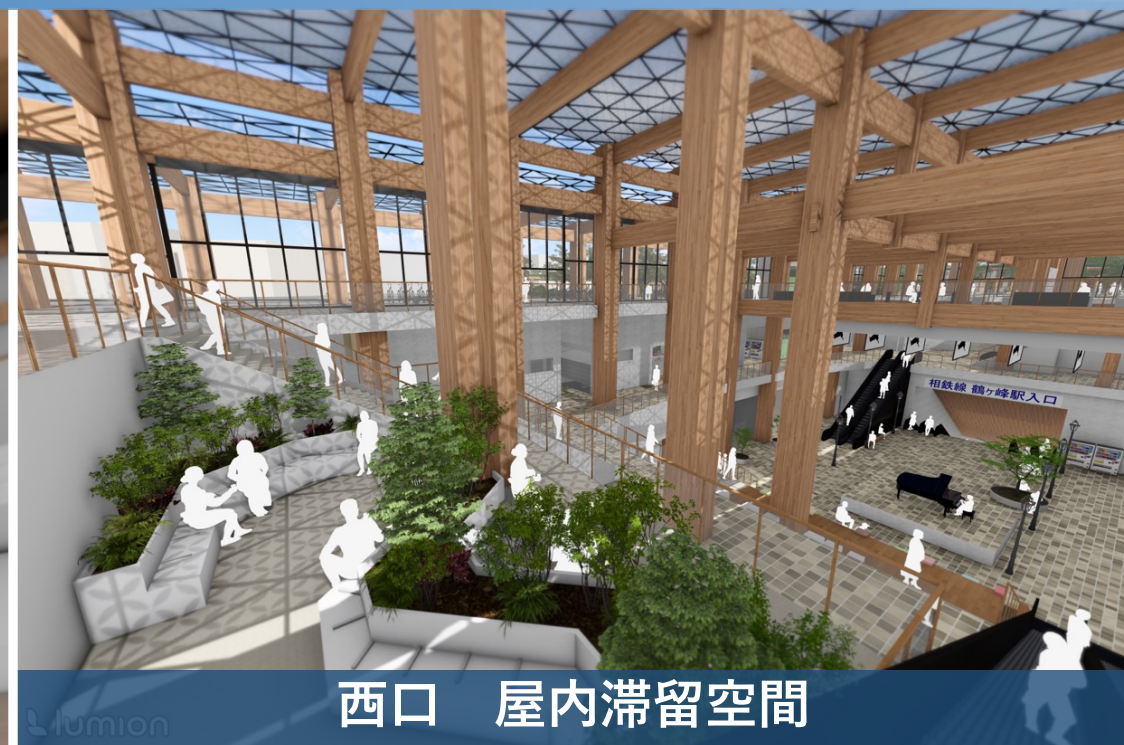
鶴ヶ峰駅本体は地上・地下2層・改札階・駅ホームで構成されている。地上階と地下2層のメインホールは吹き抜けで一体的につながり、駅入り口から地下2階までを見下ろすことができる。[鉄道利用者の駅利用動線は最もシンプルで明確な経路](#)とし、商業利用者や広場イベント等により妨げられないように計画した。

駅のホールを取り囲むように様々な滞留空間を配置しており、各々の目的や好みで場所を選択して休憩・交流ができる。大階段前には[昇降式舞台](#)があり、地域住民や学生などによる演奏・発表等を大階段から観覧できるだけでなく、自然と駅利用者の目に入ることで[地域の活動がより多くの人に認知される](#)。

また、地下1階にはレンタルコワーキングルームを数部屋配置している。習い事教室やイベント準備などに用いることで駅が住民の意欲的な活動をサポートし、様々な活動を誘致・活性化させる。



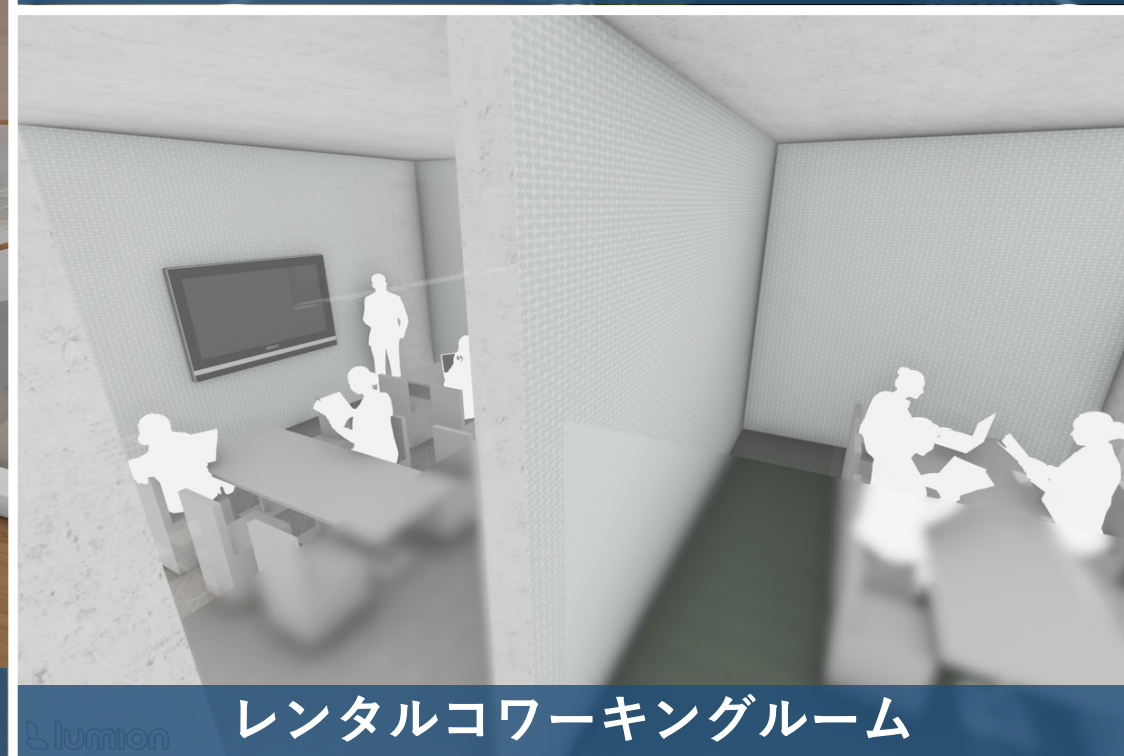
大階段からホール



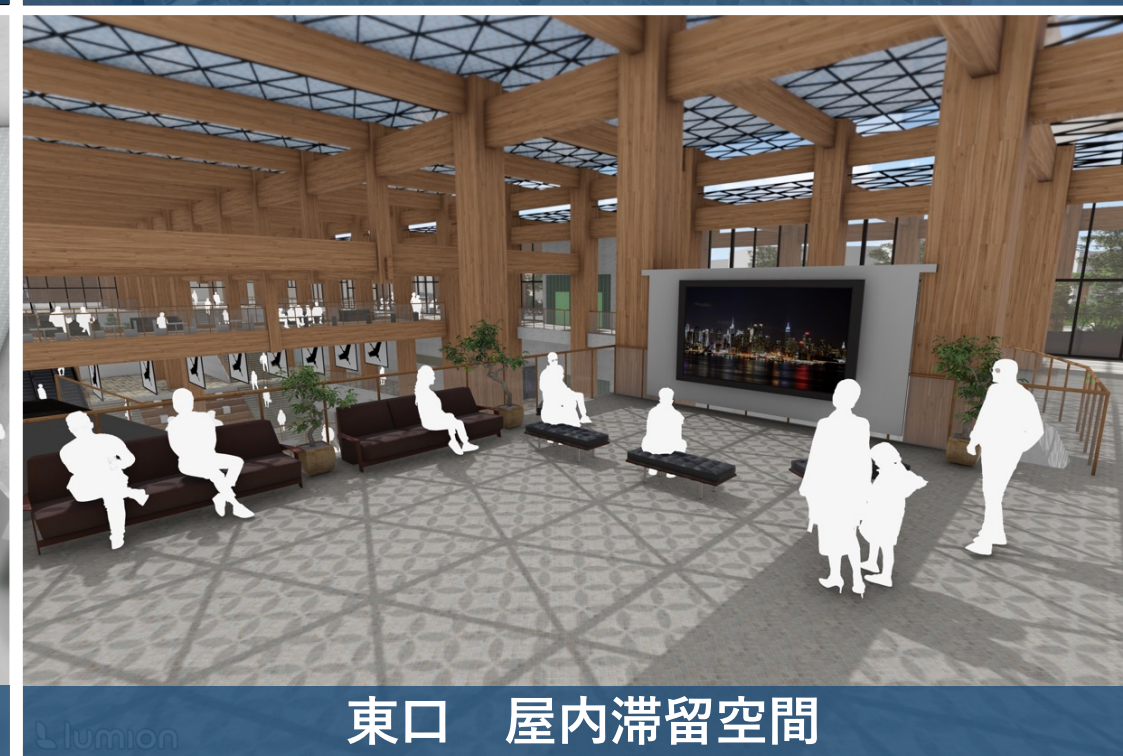
西口 屋内滞留空間



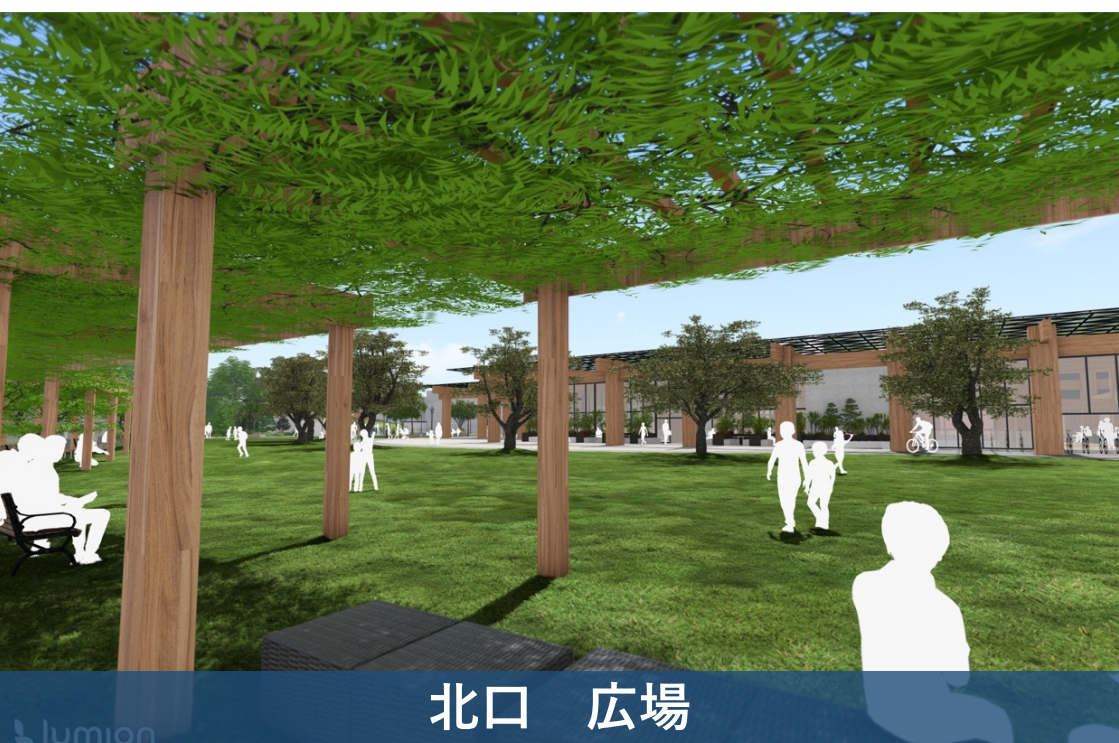
東口からホール



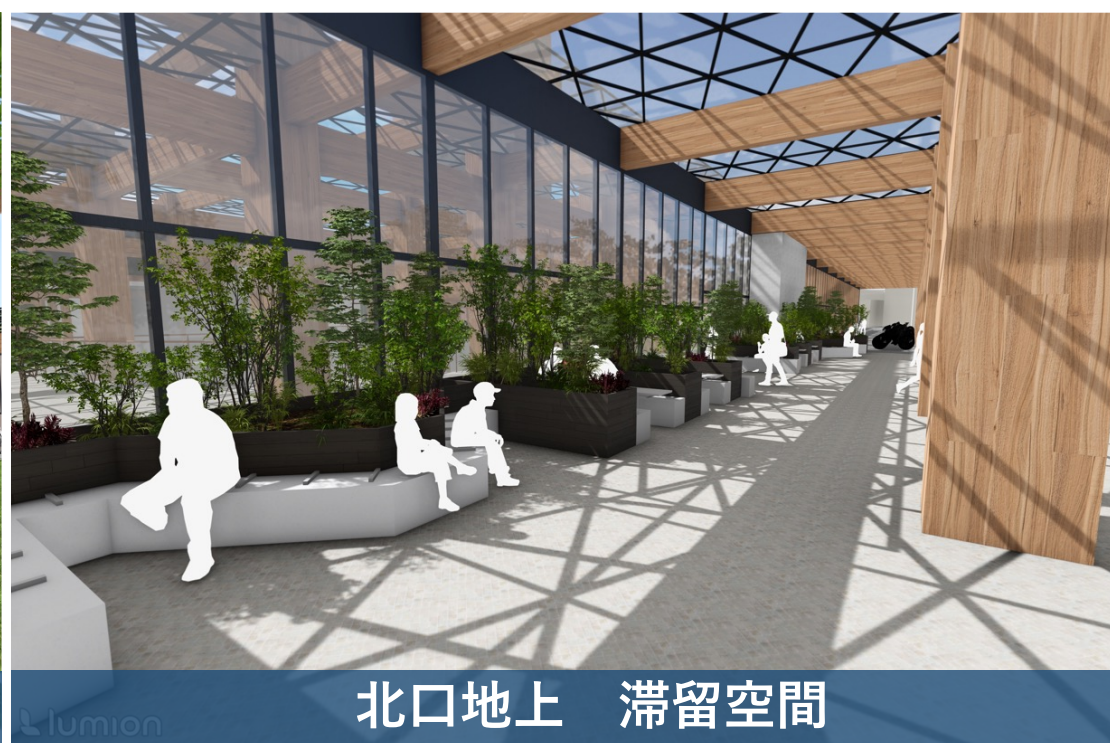
レンタルワークキングルーム



東口 屋内滞留空間



北口 広場



北口地上 滞留空間



駅南 藤棚



東口駅前 じゃぶじゃぶ広場



親水緑道カフェテラス